

野々市町役場建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

三納トヘイダゴシ遺跡（第2次）

2013

石川県野々市市教育委員会

三納トヘイダゴシ遺跡（第2次）

2013

石川県野々市市教育委員会

例 言

- 1 本書は、三納トヘイダゴシ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は、石川県野々市市三納地内である。
- 3 調査原因は野々市町役場(当時、現野々市市役所)に伴うものである。
- 4 調査は、野々市町教育委員会(当時)が実施した。
- 5 調査にかかる費用は、野々市市が負担した。
- 6 調査は、平成13年度に実施した。遺跡名・面積・期間・調査体制は下記のとおりである。

遺跡名	三納トヘイダゴシ遺跡
面積	3,800㎡
期間	平成13年4月9日～平成13年9月30日
調査主体	野々市町教育委員会(教育長 田村昌俊)
担当課	野々市町教育委員会 文化振興課(課長 高本実)
調査担当	永野勝章(野々市町教育委員会文化課 主事)
整理・報告書作成作業	
担 当	永野勝章

- 7 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - (1) 方位は座標北を指し、座標は国土交通省告示の平面直角座標第Ⅶ系に準拠している。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、T. P. (東京湾平均海面標高)による。
 - (3) 出土遺物番号は、遺跡ごとに本文・観察表・挿図・写真で対応する。
 - (4) 挿図の縮尺は図に示すとおりである。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。
 - (5) 土層断面図においてスクリーントーンで示したものは、特に断りがない限り石を示すものとする。
 - (6) 遺構名の略号は次のとおりである。
掘立柱建物(SB)・溝(SD)・土坑(SK)・小穴(SP)・不明遺構(SX)
また、小穴(SP)は遺物が検出されたものについて、調査時の番号をもってその位置のみを第5・6図で示すこととする。
 - (7) 出土遺物についての報告は観察表をもって換えるものとする。
- 8 調査に関する記録と出土遺物は、野々市市教育委員会が一括して保管・管理している。

目 次

第1章 調査の経過と経緯	1
第1節 調査の経過	1
第2章 位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の成果	4
第1節 層序	4
第2節 遺構	4
第3節 遺物	6
報告書抄録	30
写真図版	31
挿図口次	
第1図 調査区位置図	1
第2図 野々市市位置図	2
第3図 遺跡の位置と周辺の遺跡	3
第4図 遺構全体図(S=1/500)	8
第5図 遺構全体図(II区)(S=1/350)	9
第6図 遺構全体図分割(I区)(S=1/350)	10
第7図 SB1平面図・断面図(S=1/40)	11
第8図 SB2平面図・断面図(S=1/40)	12
第9図 竪穴1・2平面図・土層断面図(S=1/40)	13
第10図 竪穴3平面図・土層断面図(S=1/40)	14
第11図 SK01・SK02平面図・土層断面図(S=1/40)	15
第12図 SK03平面図・土層断面図(S=1/40)	16
第13図 SX01平面図・土層断面図(S=1/40)	17
第14図 SX02平面図・土層断面図(S=1/40)	18
第15図 SD01～SD08断面位置図一覽(S=1/500)	19
第16図 SD01・SD02平面図・断面図(S=1/80)	20
第17図 SD03平面図・土層断面図(S=1/40)	21
第18図 SD04・SD05平面図・断面図(S=1/80)	22
第19図 SD06・SD07・SD08平面図・断面図(S=1/80)	23
第20図 I区東壁平面図・断面図(平面図S=1/150、断面図S=1/60)	24
第21図 遺物実測図1	25
第22図 遺物実測図2	26
第23図 遺物実測図3	27
第24図 遺物実測図4	28
第25図 遺物実測図5	29
表目次	
第1表 周辺の遺跡一覽表	3
第2表 出土遺物観察表	6

第1章 調査の経過と経緯

第1節 調査の経過

平成12年秋、野々市町新庁舎建設準備室(当時。以下、新庁舎建設準備室)から野々市町教育委員会(当時。以下、町教育委員会)に対して野々市町三納地内において野々市町新庁舎建設に係る埋蔵文化財の取扱いについて問合せがあった。町教育委員会では対象地が周知の埋蔵文化財包蔵地内(三納トヘイダゴシ遺跡)であると回答し、双方の間で協議を行い工事によって埋蔵文化財が影響を受ける範囲について発掘調査を行うことで合意した。平成13年4月1日、新庁舎建設準備室より発掘調査依頼が町教育委員会に提出された。調査面積は3,800㎡である。

発掘作業の経過として、4月9日に調査範囲を設定し、4月10日から重機による掘削を開始した。4月18日から8月30日まで作業員による発掘調査を行った。8月30日に機材を搬出し、9月に埋戻しを行い、調査を終了した。

整理作業及び報告書作成は平成25年1～3月に実施した。



第1図 調査区位置図(S=1/5000)

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

野々市市は、石川県のほぼ中央に位置する。北東は金沢市、南は白山市に隣接している。市の規模は東西約4.5km、南北約6.7km、面積は約13.56km²である。市域は手取川扇状地の扇中央部から扇端部に位置し、南東から北西に向かって緩やかに傾斜している。三納トヘイダゴシ遺跡は野々市市の中南部にあたる三納地内に所在する。



第2図 野々市市位置図

第2節 歴史的環境

ここでは三納トヘイダゴシ遺跡周辺の遺跡について概観する。

三納トヘイダゴシ遺跡(番号1)の南側に位置する粟田遺跡(番号2)は縄文から近代にかけての遺跡である。縄文時代のものとして手取川によって運ばれた石礫を使用した打製石斧の素材採掘場所が検出されている。

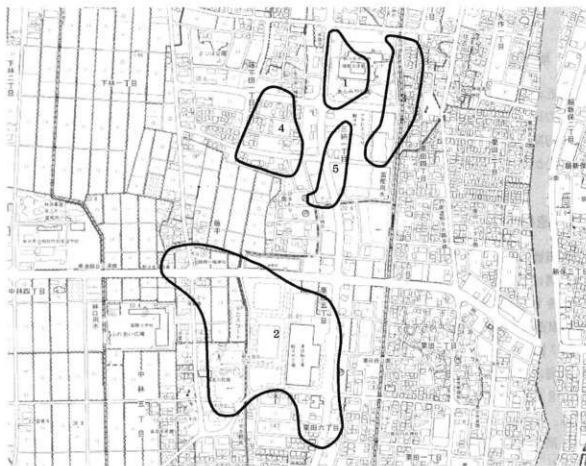
古代には扇状地扇中央部の集落が多く開始され、扇中央部の開発が進んだ。粟田遺跡の西側にある末松地区の末松福正寺、末松ダイカン遺跡などで7世紀前半代の集落跡も確認されているが、遺跡数が増えるのは7世紀後半代である。8世紀になると三納トヘイダゴシ遺跡周辺地区の南側に位置する上林・新庄遺跡群で集落が拡大するが、三納アラミヤ遺跡(番号3)もこの時期に相当する。

中世にはいと野々市中南部では13世紀から三納ニシヨサ遺跡(番号5)、そして三納トヘイダゴシ遺跡などの集落が確認されている。これらは輸入磁器を一定量有し、溝によって区画された土地に小規模な掘立柱建物を配置する集落で、その実態は自作農的な小領主層の集落と考えられる。これらの集落は14世紀頃には廃絶し、周辺の様相は近世まで明らかでない。

なお、野々市市東部には扇ヶ丘ハワイゴク遺跡など居館クラスの遺跡が検出されており、有力武士の居宅と考えられている。野々市市住吉町と扇ヶ丘地内には加賀国の守護であった富樫氏の居館と考えられる富樫館跡が存在する。館の性格を明示できるような成果は上がっていないが、守護城下町の構造に関連づけられる都市構造の一端が判明しつつある。中世後半の集落は粟田遺跡のほか、野々市市北西部の三日市A遺跡や長池キタノハシ遺跡などで展開することが確認されている。

近世、粟田周辺の地区は集落・水田となる。特に粟田集落については、『石川郡誌』に、鎮守神社の北側にあった村を、粟田川の氾濫のため村全部を粟田新保に移した、という伝承が書き留められている。

近代は、大正時代に耕地整理が終了し、水田になった。三納アラミヤ遺跡では水門跡が確認されている。



第3図 遺跡の位置と周辺の遺跡(S=1/10000)

番号	遺跡名	種別	時代
1	三納トヘイダゴシ遺跡	集落跡	中世
2	栗田遺跡	集落跡	縄文～近世
3	三納アラミヤ遺跡	集落跡	古代・近代
4	藤平田ナカシンギジ遺跡	集落跡	中世
5	三納ニシヨサ遺跡	集落跡	中世

第1表 周辺の遺跡一覧表

第3章 調査の成果

第1節 層序

この付近の土層の基本形は次のようなものである。表土は耕土で10～15cm、その下に橙色をした鉄分混じりの床土が5cm程度の深さまで広がる。次に淡灰色粘質土が20～30cm堆積する。この層は中世から昭和初期の耕作整理前の耕作土にあたると思われる。その下には20～70cmの遺物包含層にあたる褐色粘質土があり、その下が地山となる黄褐色粘質土である。

第2節 遺構

遺構全体概観(第4～6図)

当該遺構は道路をはさんで東西に分かれている。ここでは東側一帯をⅠ区(第4・6図参照)とし、西側一帯をⅡ区(第4・5図参照)とする。Ⅰ区は南北に約62m、東西に約33mを測り、Ⅱ区は南北に約78m、東西に約36mを測る(いずれも最長部での計測)。

SB1(第7図)

Ⅰ区南端に位置する掘立柱建物である。規模は南北(SB01-5～SB01-17)に約6m、東西(SB01-6～SB01-8)に約3mであり、各柱間の間隔は約1.6mである。ピットの幅と深さはそれぞれ約25cm・12.5cmである。

なお、第7・8図の各ピットにつけた名称(SB01-01など)は、今回の報告のために便宜的に付けたものであり、調査時に付けられた名称とは異なっている。

SB2(第8図)

Ⅰ区南端に位置する掘立柱建物であり、SB1の東隣に位置する。後述の竪穴1・2と場所を同じくしている。規模は南北(SB02-1～SB02-8)に約7.25m、東西(SB02-1～SB02-2)に約2mであり、ピットの幅は22cm～55cm程度で深さは一番深いもので約53cmである。

竪穴1・2(第9図)

Ⅰ区南端に位置する遺構であり、先に挙げたSB2と場所を同じくする。竪穴1の規模は南北で約3.5m、東西2.9mであり、竪穴2の規模は南北で約3.1m、東西で約2.8mである。竪穴1の深さは最深部で約28cm、竪穴2の深さは最深部で約27.5cmである。

竪穴3(第10図)

Ⅰ区中央からやや南側に位置する遺構である。規模は南北で約3.2m、東西で約3mであり、深さは最深部で約15cmを測る。

SK01・SK02(第11図)

Ⅱ区南側に位置する土坑である。SK01の規模は南北で約1.5m、東西で約3.8mであり、深さは約最深部で約40cmを測る。また、SK02の規模は南北で約1.65m、東西で約2.3mであり、深さは最深部で約40cmを測る。

SK03(第12図)

Ⅰ区南側に位置する土坑であり、先述のSB01のすぐ北側に位置する。掘鉢状の断面を呈し、その規模は南北で約3.4m、東西(A-A')で約3.8mであり、深さは約95cmを測る。

SX01(第13図)

II区南西に位置し、後述するSD03と位置を同じくする。その規模は南北で約3.4m、東西で約3mであり、深さは最深部で約50cmを測る。

SX02(第14図)

II区南側に位置し、先に挙げたSX01の東側に位置する。規模は南北(A-A'の軸)で約4.8m、東西(A-A'に直交する軸)で約3.3mであり、深さは約11.5cmを測る。

SD01～SD08概観(第15図)

今回報告する溝を遺構全体図の中に示したものが第15図である。おのおのの傾きは南北の軸を0°としたとき、西に約30°振れている。また、I区では中央やや北と南に、いずれも南東から北西に流れる自然河道が検出されている(第4～6図参照)。

SD01・SD02(第16図)

I区のおおむね中央に位置する。SD01はアルファベットのVの字のような形状をしており、ここでは西側をSD01a、東側をSD01bとする。SD01の規模はSD01a・SD01bそれぞれにおいて最長部で約6.8m・13mを測り、幅はそれぞれ約60cmを測る。深さはSD01aでは約10cmでSD01bでは約22cmとなる。SD02の規模は最長部で約18mを測り、幅は約1.1mを測る。深さは約10cmを測る。

SD03(第17図)

II区南西に位置し、先述のSX01と位置を同じくする。規模は、確認可能な範囲では最長部で約8.3mを測り、幅は約40cmを測る。深さは約10cmを測る。

SD04・SD05(第18図)

II区南東に位置する。SD04の規模は、最長部で約26.5mを測り、幅は約1.1mを測る。深さは約12cmを測る。またSD05の規模は、SD07と合わせて最長部で約33mを測り、幅は約1mを測る。深さは約10cmを測る。

SD06・SD07・SD08(第19図)

II区のおおむね中央に位置する。SD06の規模は最長部で約6.8mを測り、幅は約30cmを測る。深さは約6cmを測る。SD07の規模は、最長部についてはSD05と合わせて記述した通りで、深さは約5cmを測る。そしてSD08の規模は最長部で約10mを測り、幅は約38cmを測る。深さは約10cmを測る。また、切り合い関係からSD07はSD06よりも新しい。

I区東壁(第20図)

I区中央部の東端に位置する。幅は約15mを測る。

第3節 遺物

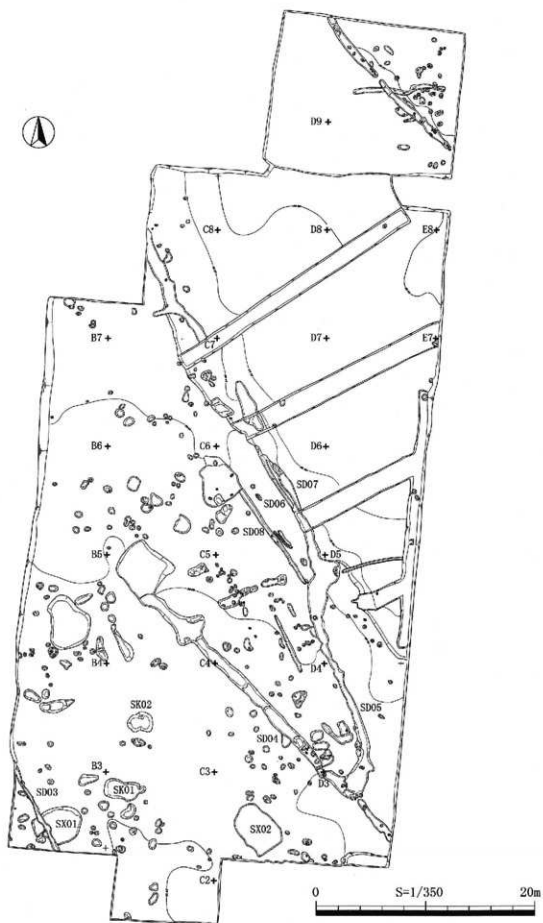
第2表 出土遺物観察表

番号	出土地点	類別	面積	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土 (胎土色、口有物)	色調(内)		残存率	特記事項
								色調(内)	調整(外)		
1	II区 SP04北面	陶文土器		36.8			にぶい黄褐色、砂礫、赤・黒色粒	にぶい黄褐色 紫褐色・にぶい黄色	調整部ミガキ	口縁部 1/5	
2	II区 包含層	陶文土器		19.4			浅黄褐色	にぶい黄褐色 浅黄褐色・暗灰黄色	口縁部3条 比線5条	小片	外周の比線の帯に陶文・陶文 痕跡(比線、3と同一個体)
3	II区 包含層	陶文土器					浅黄褐色	浅黄褐色 にぶい黄褐色	比線 比線4条	小片	外周の比線の帯に陶文・陶文 痕跡(比線、2と同一個体)
4	II区 包含層	陶文土器	注1)				浅黄褐色・暗灰色、赤色粒・黒色粒	浅黄褐色 にぶい黄褐色・黒褐色	黒文部ミガキ	小片	底径7.5センチ、同心再取法跡
5	II区 包含層	陶文土器	注1)				浅黄褐色・暗灰色、赤色粒・黒色粒	浅黄褐色 にぶい黄褐色・紫褐色	ミガキ、沈着	小片	
6	I区大河中央 河底北面	陶文土器					にぶい褐色、砂礫・黒色粒	にぶい褐色 にぶい褐色	無紋 比線4条、陶文	小片	
7	II区 SD02東	陶文土器					黄灰色、砂礫	黄灰色 黄灰色	比線	小片	
8	II区 SP09北面	陶文土器					にぶい黄色、砂礫	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色			
9	II区 西段底	陶文土器			6.4		にぶい黄褐色、黒色粒	にぶい黄色 にぶい黄褐色	ナデ ヘラおこし	底面 1/3	
10	II区 SP05	陶文土器?				6.2	浅黄褐色、砂礫・赤色粒	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色		底面 2/5	
11	I区 SP22北面	石器		長さ 12.5	幅 7.8	厚さ 2.7	石膏・凝灰片				重量: 250g
12	I区 SP23	石器		長さ 13.3	幅 7.1	厚さ 2.6	石膏?				重量: 200g
13	II区 B7遺構出土時	陶器類	有台枠		1.5	7.0	灰白色、砂礫	灰白色 灰色	口コナテ、底面ヘラおこし	底面 5/18	
14	II区 M2南東	壺		23.6			にぶい黄褐色、砂礫、黒色粒・凝灰片	にぶい黄褐色	ナデ 口コナテ	口縁部 1/12	スス付着、古代?
15	II区大河 D7・D8	土師器	皿	6.0			にぶい黄褐色、赤色酸化粒・凝灰片	にぶい黄褐色	口コナテ	口縁部 1/6	手づくね、中底
16	I区 堀穴3	土師器	杯	7.4	1.0	5.4	褐色、黒色粒	褐色	ナデ ナデ	口縁部 1/3	手づくね
17	II区 大河B7	土師器	杯				褐色、赤色粒・凝灰片	褐色	口コナテ ナデ	小片	手づくね
18	I区 SK03北面	土師器	皿	6.0	1.6		褐色、赤色酸化粒	浅褐色 褐色	口コナテ 口コナテ	口縁部 1/6	手づくね
19	II区 大河B7	土師器	皿	8.0			浅黄褐色	浅黄褐色	口コナテ 口コナテ	小片	手づくね、中底
20	II区 大河C11	土師器	皿	7.4			黄褐色、赤色酸化粒	浅黄褐色	口コナテ 口コナテ	口縁部 2/9	手づくね、中底
21	II区大河 トレンチ2-12	土師器 (灯明)	皿	8.2	1.5	1.0	浅黄褐色	浅黄褐色	口コナテ ナデ	口縁部 1/6	手づくね、スス付着
22	I区 竪立柱穴	土師器	皿				浅黄褐色	浅黄褐色 にぶい黄褐色	口コナテ 口コナテ	小片	手づくね
23	I区 堀穴1南東	土師器	皿	8.6	1.15		褐色、赤色酸化粒	褐色	口コナテ、底面ナデ 口コナテ、底面ナデ	口縁部 1/4	手づくね
24	II区 大河D1	土師器 (灯明)	皿	3.8			灰黄色、砂礫	灰黄色	口コナテ 口コナテ	口縁部 1/12	手づくね、スス付着
25	II区大河C6 遺構出土時	土師器 (灯明)	皿	9.0			褐色、黒色粒	褐色	口コナテ 口コナテ	口縁部 1/4	手づくね、スス付着、中底
26	II区 大河A	土師器	皿	8.2	1.0	5.2	浅黄褐色、砂礫	浅黄褐色	口コナテ、底面ナデ 口コナテ、底面ナデ	口縁部 1/12	手づくね、中底
27	II区 C7遺構出土時	土師器	皿	8.8			褐色	褐色	口コナテ 口コナテ	口縁部 1/9	手づくね、中底
28	II区大河 C6東	土師器	皿	9.4		1.5	にぶい黄褐色、赤色酸化粒	にぶい黄褐色	口コナテ 口コナテ	口縁部 5/36	手づくね、中底

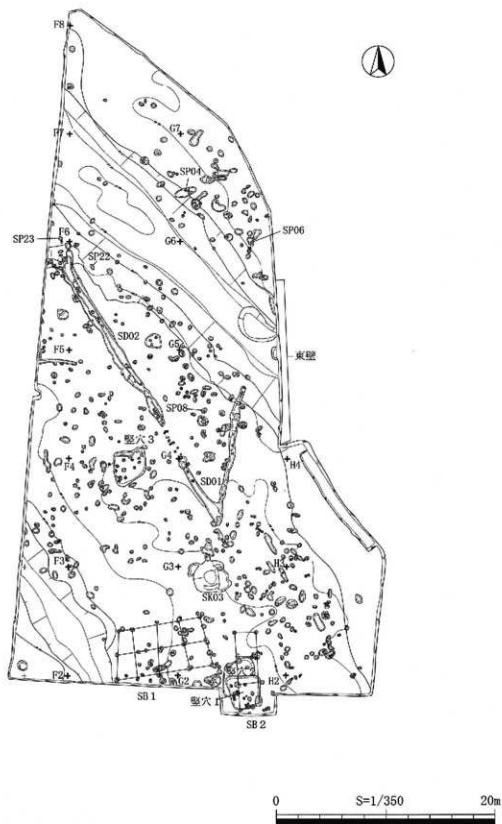
番号	出土地点	種別	器種	寸法			胎土 (胎土色、含有物)	色調(内)		残存率	分析事項	
				口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)		胎土色、含有物	調整(内)			調整(外)
29	II区大河 C8集	土師器	皿	9.0		1.4	褐色	褐色	ヨコナテ	口縁部 1/6	子づくね、中世	
	II区 大河田7	土師器	皿	11.4			浅黄褐色	浅黄褐色	ヨコナテ ヨコナテ	口縁部 1/12	子づくね、中世	
31	II区 C8	陶器	鉢	25.3			灰色、砂礫	灰色		口縁部 1/12	埴輪	
	I区 東塚	陶器	鉢	21.6			灰白色、黒色粒	灰色 灰白色	ヨコナテ ロクロナテ	口縁部 1/18	埴輪断面	
33	II区大河D8	陶器	壺				灰色、黒色粒・ 黒色片	灰色			小片	埴輪
	II区大河 C8	陶器	甕鉢	34.8			黄灰色、 砂礫・海綿片	黄灰色	ロクロナテ、おろし目5本		口縁部 1/18	埴輪?
35	II区 SD3	陶器	甕鉢				灰白色、砂礫・ 黒色粒・海綿片	灰白色		口縁部 2/9		埴輪
	{1区?}柱穴6 (北面上層)	陶器	甕鉢				灰色、砂礫	灰色	ヨコナテ、おろし目6本		小片	埴輪
37	II区大河 H11	陶器	甕鉢	29.6			黄灰色、砂礫・ 黒色粒	黄灰色		口縁部 1/18		埴輪
	I区SK3 北面上層	陶器	甕鉢		14.6		灰白色、砂礫・ 黒色粒	灰白色		口縁部 1/5		埴輪断面
38	I区SK3 北面上層	陶器	鉢	33.0			灰白色	灰黄色 灰褐色	ヨコナテ	口縁部 1/9	越前、外皮、西沢弁かマン ダン片断、14区前後下~木期	
	不明	陶器	鉢	36.4	13.4	14.2	灰白色、黒色粒	灰褐色	ヨコナテ	口縁部 1/6		越前
41	II区大河 トレンチ2・2	灰土器	瓶類				灰白色、黒色粒	灰色			小片	
	II区大河 B8	陶器	壺	8.6			灰白色	灰白色・褐色 灰オリーブ色(灰胎)		口縁部 1/9		瀬戸
43	I区 表上	陶器	天目 茶碗	12.0			灰白色、黒色粒	黒色(鉄胎)		口縁部 1/9		瀬戸美濃
	I区 表上	陶器	皿				灰白色	灰白色(灰胎)			小片	瀬戸、新口深皿 後期1期
45	II区大河 C8	陶器	皿				灰青色	灰黄色 胎土部オリーブ 黄色(灰胎)	おろし目 ロクロナテ	小片		瀬戸
	II区大河 E-1	磁器	碗	12.2			灰白色	オリーブ灰色	ロクロナテ	口縁部 1/18		青磁
47	不明	磁器	皿	14.0			灰白色	染付(透明釉)		口縁部 1/12		15~16区前後半
	I区 南塚	磁器	皿				灰白色	染付(透明釉)			小片	埴輪断面
49	II区西南部 遺構検出時	磁器	皿		7.8		灰白色	染付(透明釉)		口縁部 1/6		埴輪断面
	II区 B7遺構検出時	陶器	碗				灰青色	にぶい黄色(灰胎)			不明	
51	II区 SD3	陶器	碗	4.8			灰白色	オリーブ黄色(灰胎)		底部 5/18		埴輪断面
	II区 トレンチ	陶器	碗	4.0			にぶい黄褐色	灰色(灰胎)			断面 完全形	瀬戸瓦、埴土片
53	II区 C4遺構検出時	陶器	甕鉢	34.8			灰白色	黒褐色(鉄胎)	おろし目 ロクロナテ	口縁部 1/12		
	II区 C4遺構検出時	石製品	砥石	長さ 7.2	幅 3.4	厚さ 1.8	石質?					重量: 55g
55	遺穴1	金属 製品	鉄	長さ 2.6	厚さ 0.8							重量: 8.9g 元素組成: 4数分析



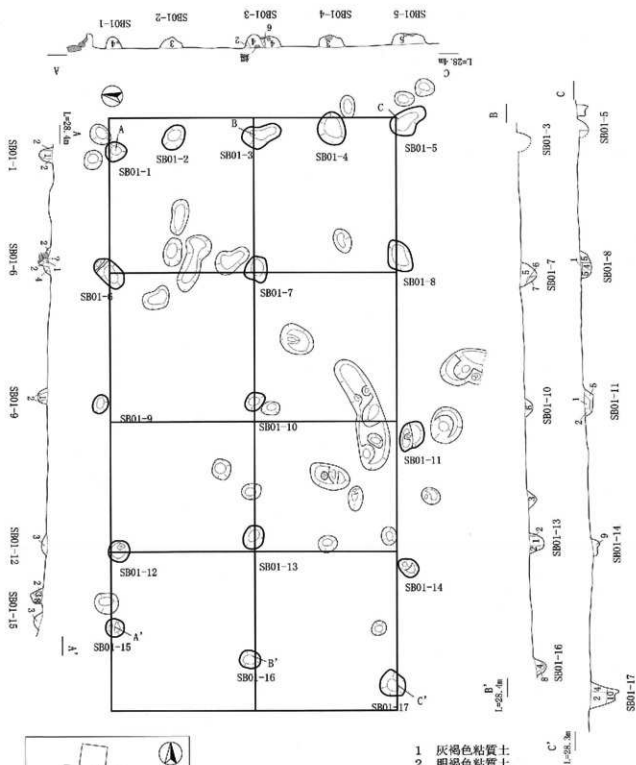
第4图 遺構全体図 (S=1/500)



第5図 遺構全体図(Ⅱ区)(S=1/350)



第6図 遺構全体図分割 (I区) (S=1/350)

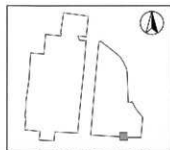
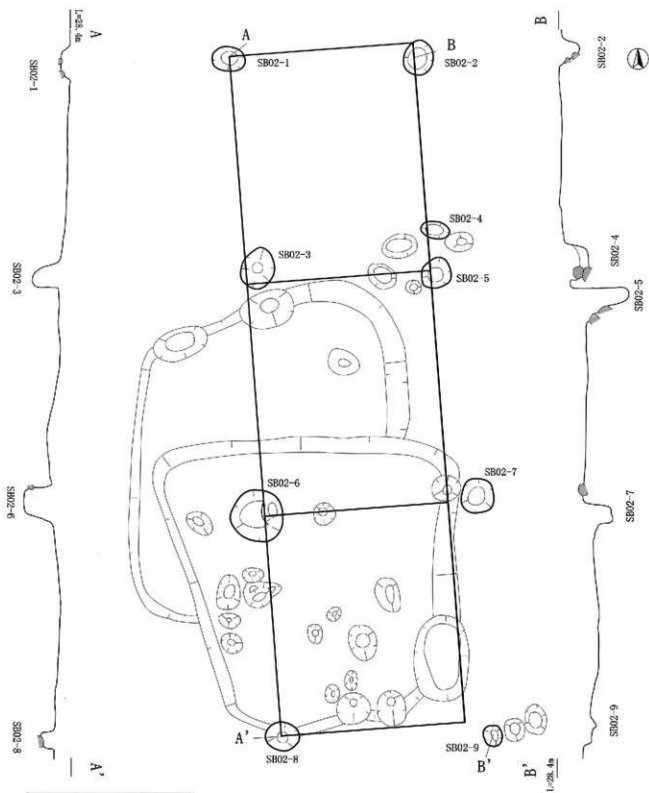


ガイド図 (S=1/1000)

- 1 灰褐色粘質土
- 2 明褐色粘質土
- 3 明灰色粘質土
- 4 暗褐色粘質土
- 5 暗褐色粘質土に地山ブロック混じる
- 6 暗褐色粘質土+地山
- 7 暗褐色粘質土
- 8 明褐色粘質土
- 9 明灰色粘質土に地山ブロック混じる
- 10 黒色粘質土

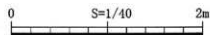
0 S=1/40 2m

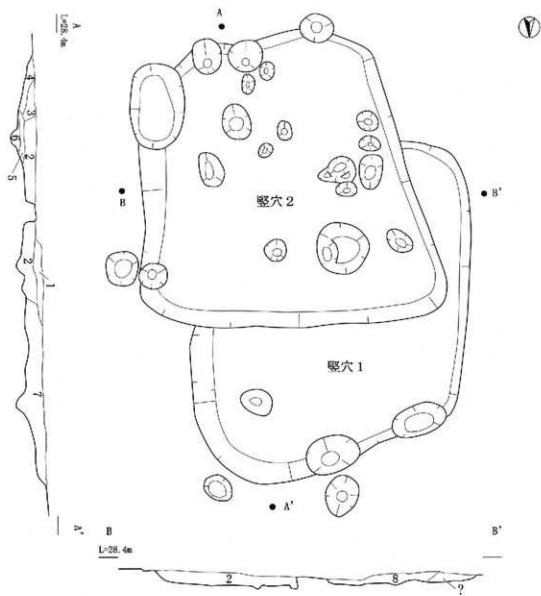
第7図 SB1平面図・断面図 (S=1/40)



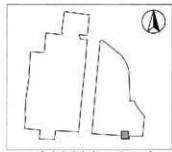
ガイド図 (S=1/1000)

第8図 SB2平面図・断面図 (S=1/40)

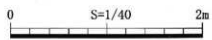




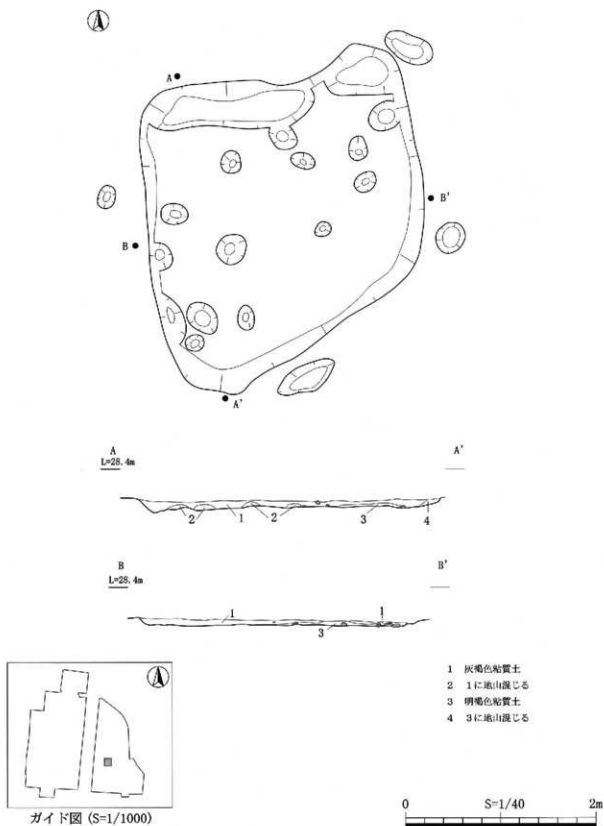
- 1 暗灰色粘質土 (粘性強い)
- 2 黒褐色粘質土に少量の地山ブロック混じる
- 3 明褐色粘質土に地山ブロック混じる
- 4 暗褐色粘質土に地山ブロック混じる
- 5 暗褐色粘質土
- 6 明灰色粘質土と地山混じる
- 7 暗褐色粘質土
- 8 明灰色粘質土?



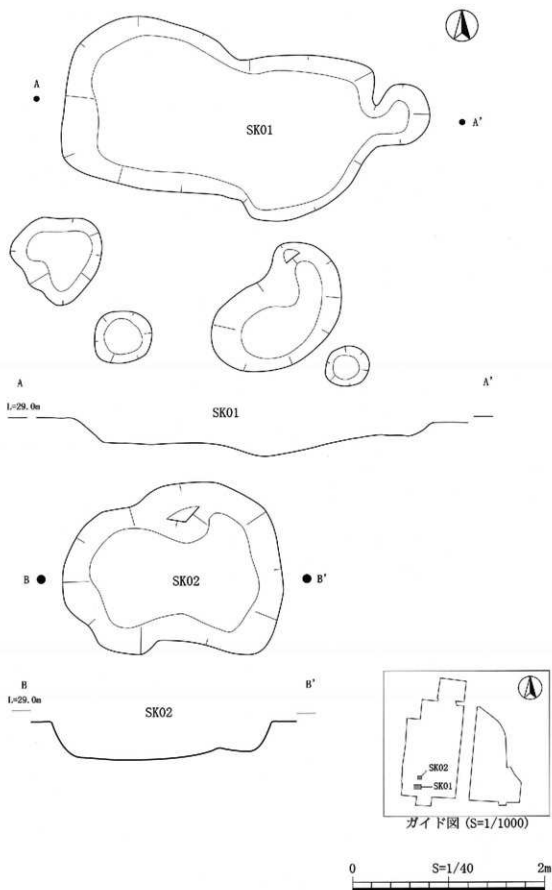
ガイド図 (S=1/1000)



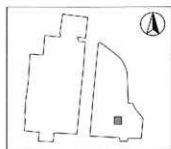
第9図 竪穴1・2平面図・土層断面図 (S=1/40)



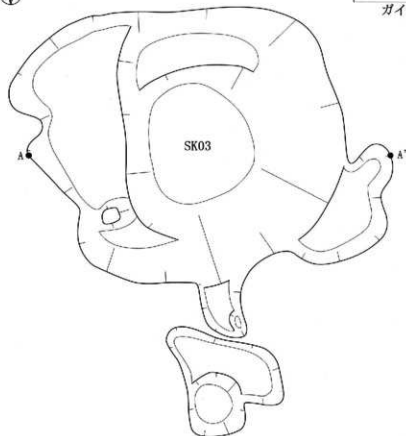
第10図 整穴3平面図・土層断面図 (S=1/40)



第11図 SK01・SK02平面図・土層断面図 (S=1/40)

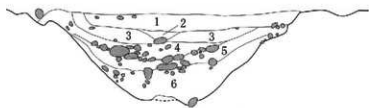


ガイド図 (S=1/1000)

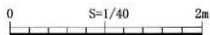


A
L=28.7m

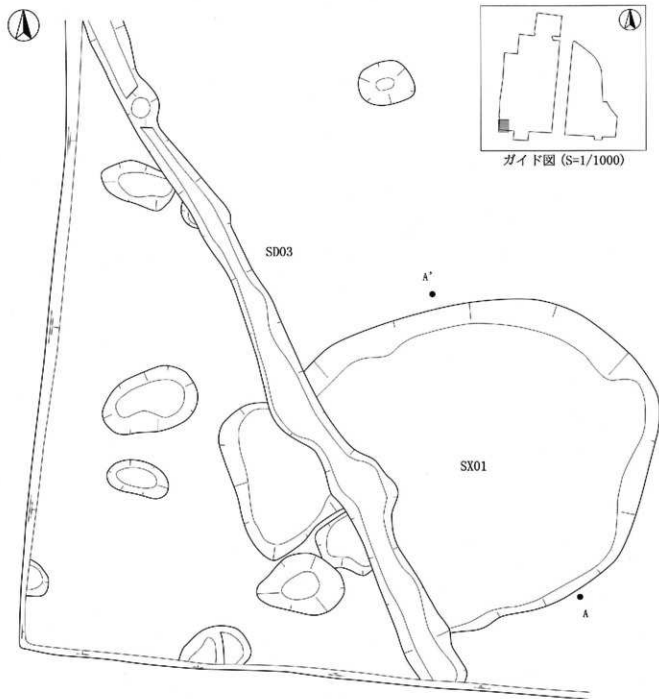
A'



- 1 暗褐色粘質土
- 2 灰褐色粘質土 (粘性強い)
- 3 灰色粘質土 (粘性強い)
- 4 明褐色粘質土に礫混じる
- 5 3よりやや暗い上に礫混じる
- 6 黒褐色粘質土



第12図 SK03 平面図・土層断面図 (S=1/40)



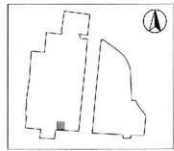
A
L=29.1m



A'
1 暗褐色粘質土
2 1よりやや明るい

0 S=1/40 2m

第13図 SX01 平面図・土層断面図 (S=1/40)



ガイド図 (S=1/1000)

A ●

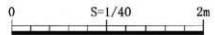


SX02

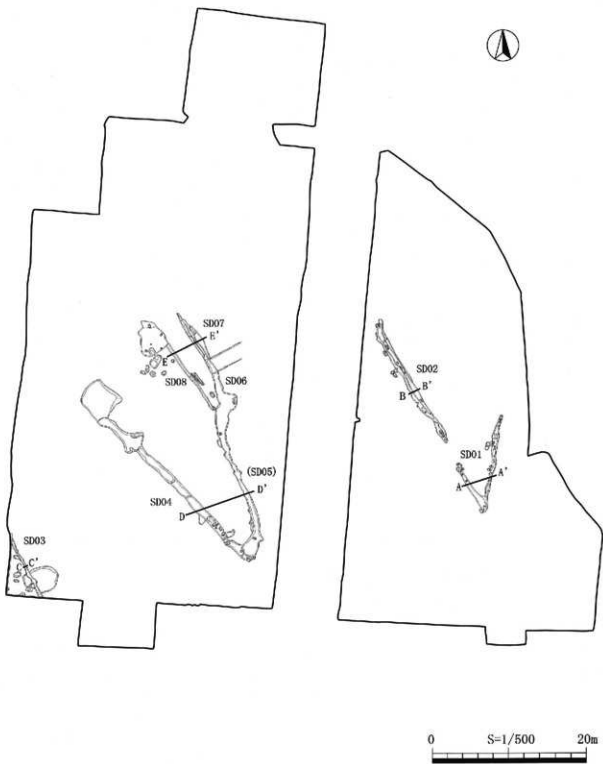
● A'

A
L-29_in

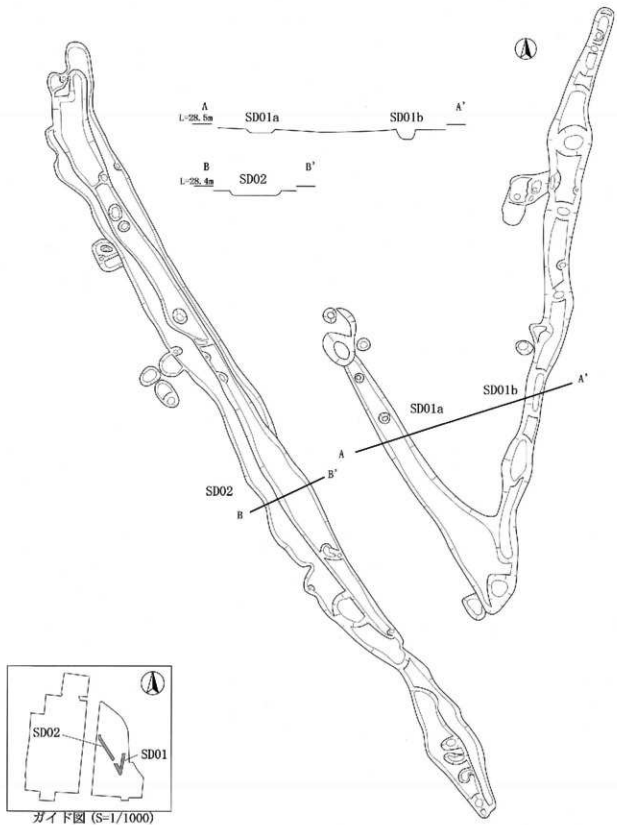
A'



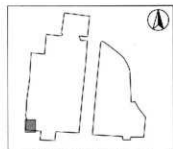
第14図 SX02 平面図・土層断面図 (S=1/40)



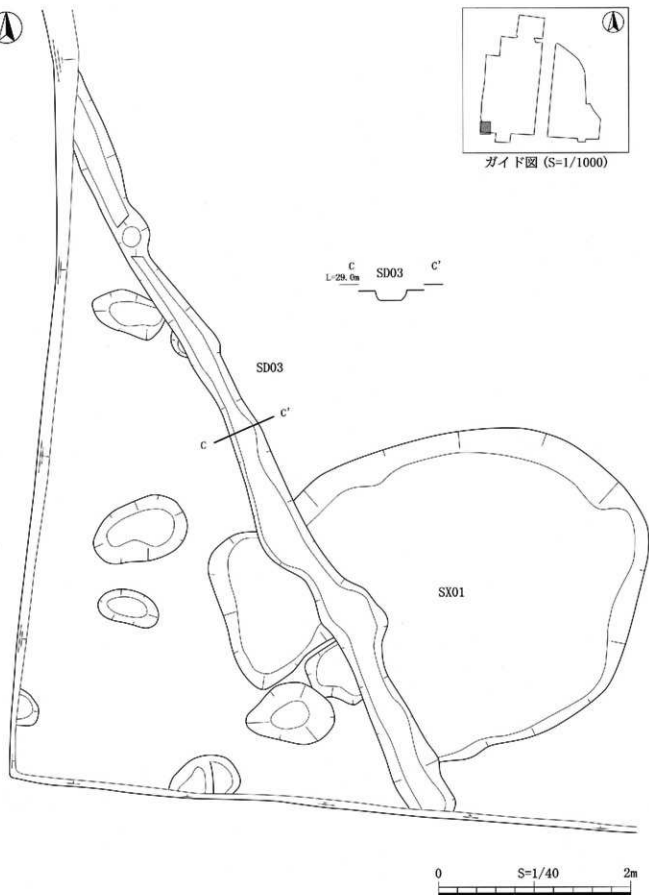
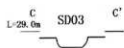
第 15 图 SD01 ~ SD08 断面位置図一覽 (S=1/500)



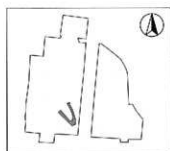
第16図 SD01・SD02 平面図・断面図 (S=1/80)



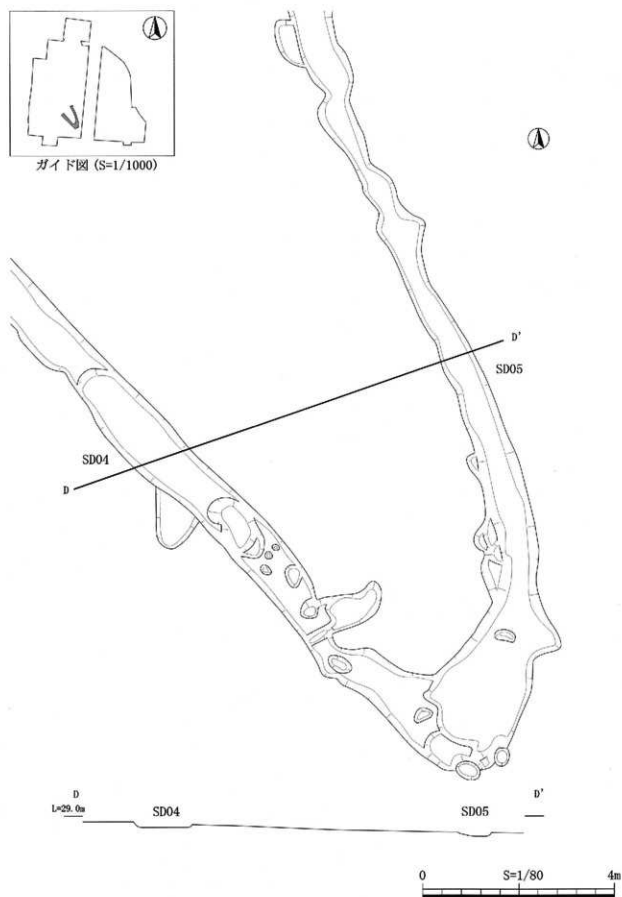
ガイド図 (S=1/1000)



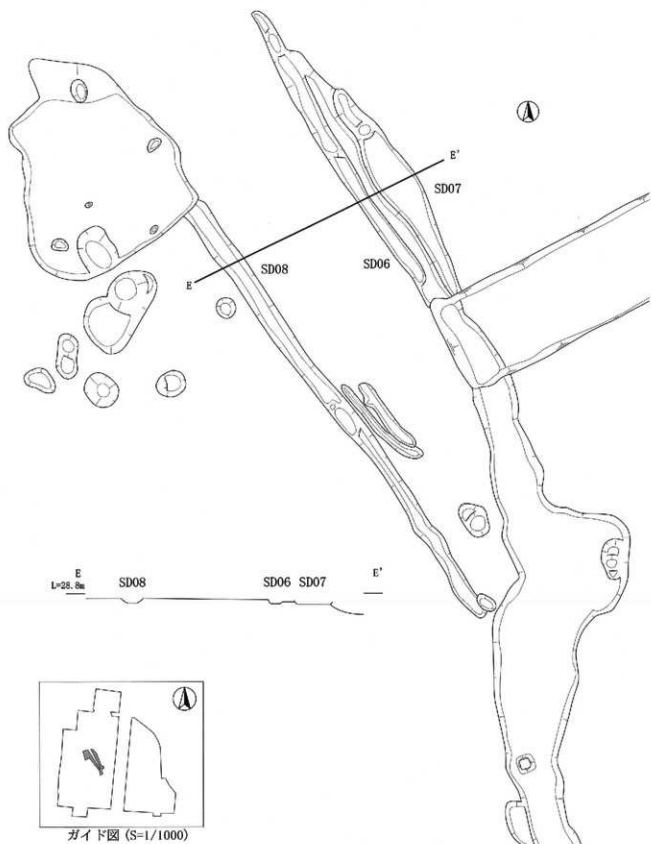
第 17 図 SD03 平面図・土層断面図 (S=1/40)



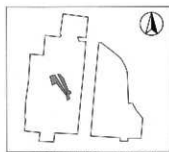
ガイド図 (S=1/1000)



第 18 図 SD04・SD05 平面図・断面図 (S=1/80)



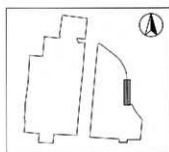
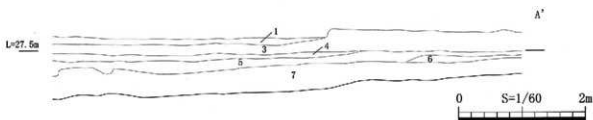
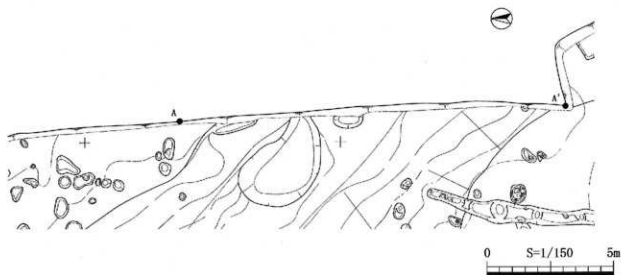
E
L=28.8m SD08 SD06 SD07 E'



ガイド図 (S=1/1000)

0 S=1/80 4m

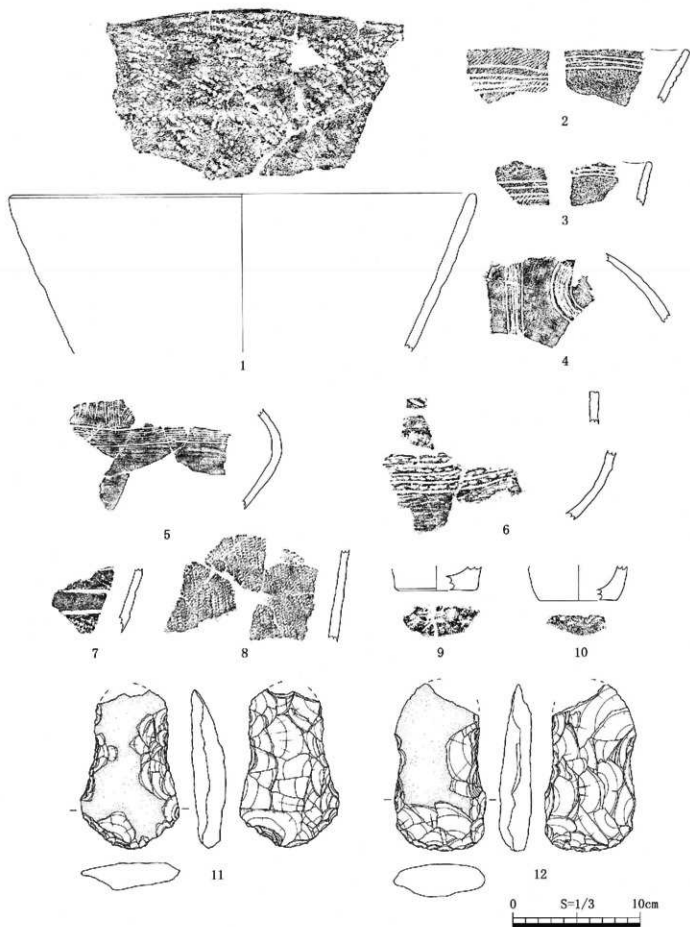
第19図 SD06・SD07・SD08 平面図・断面図 (S=1/80)



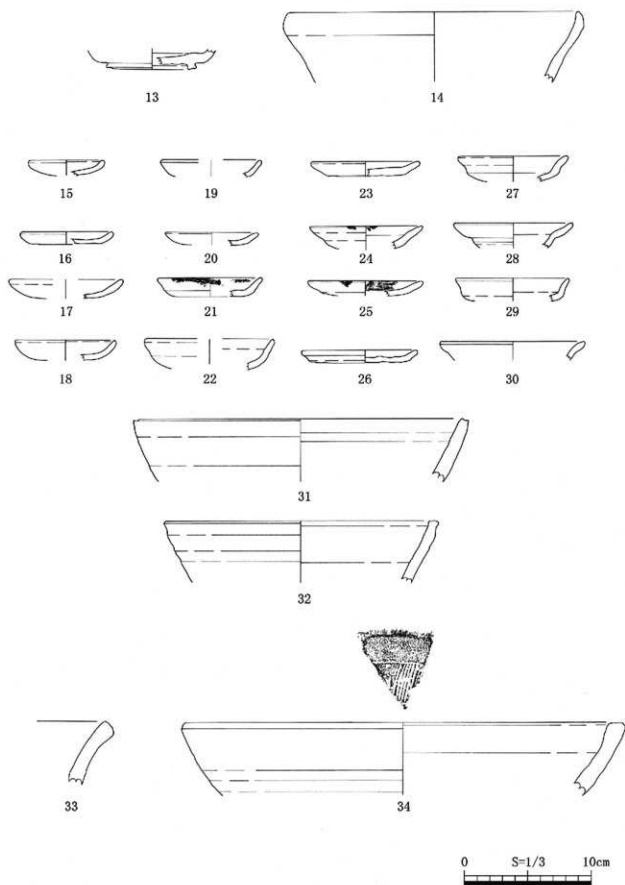
ガイド図 (S=1/1000)

- 1 床土
- 2 灰色粘質土 (粘性強い)
- 3 濁灰色粘質土 (粘性強い)
- 4 暗灰色粘質土 (粘性強い)
- 5 明褐色粘質土
- 6 褐色粘質土
- 7 暗褐色粘質土
- 8 褐色粘質土
- 9 濁明褐色粘質土
- 10 明褐色粘質土
- 11 暗褐色粘質土
- 12 暗褐色粘質土に地山混じる

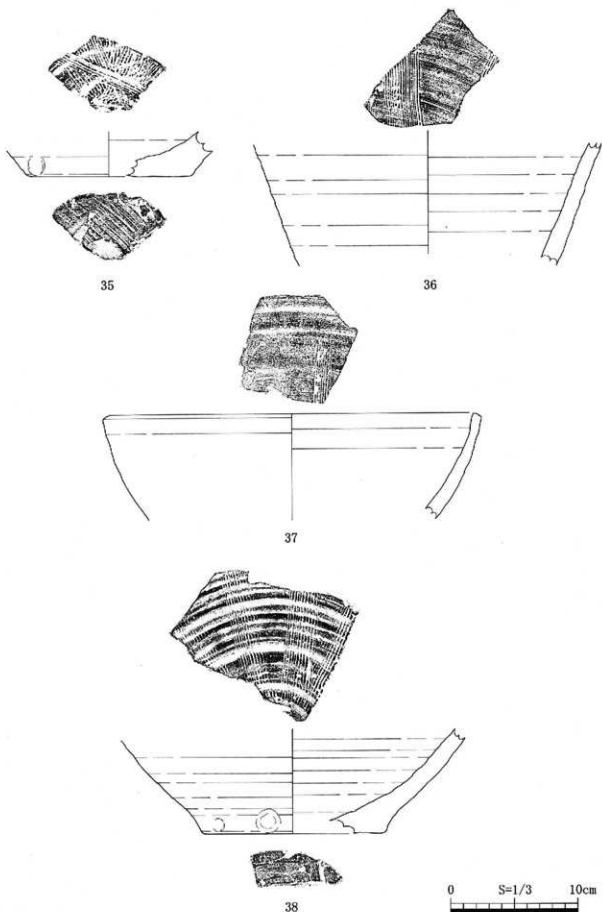
第20図 1区東壁平面図・断面図 (平面図 S=1/150、断面図 S=1/60)



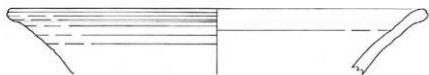
第21图 遺物実測図1 (S=1/3)



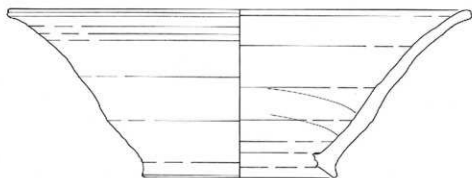
第22図 遺物実測図2 (S=1/3)



第23图 遺物実測図3 (S=1/3)



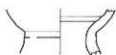
39



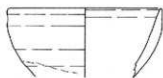
40



41



42



43



44



46



45



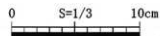
47



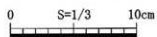
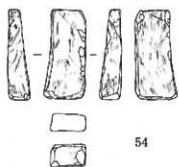
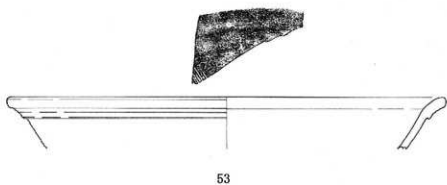
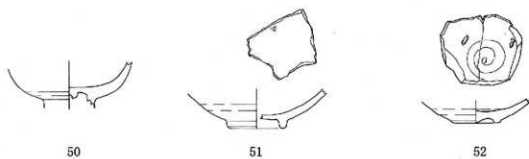
48



49



第24図 遺物実測図4 (S=1/3)



第25図 遺物実測図5 (S=1/3、55のみS=1/1)

報告書抄録

ふりがな	さんのうとへいだいこしいせき							
書名	三納トヘイダゴシ遺跡							
副書名	野々市町役場建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	水野 勝章							
編集機関	野々市市教育委員会							
所在地	〒921-8510 石川県野々市市三納一丁目1番地 fax 076-227-6122							
編集機関	野々市市教育委員会							
発行年月日	西暦2013年3月29日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
三納トヘイダゴシ遺跡	石川県野々市市三納	17344		36°31'10"	136°36'34"	20010409～20010930	3,800㎡	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
三納トヘイダゴシ遺跡	集落跡	縄文時代・中世		竪穴状遺構・竪立柱建物		土器・陶磁器・銭貨		
要約	独立柱建物や竪穴状遺構からなる中世の集落跡を検出した。							

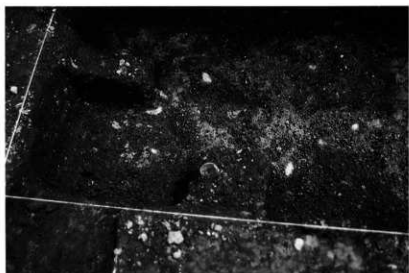
I区完掘（南より）



竪穴1・2完掘



竪穴1 鉄貨出土状況





SK03 完掘



SB01 完掘



SB02 完掘

SB03 完掘

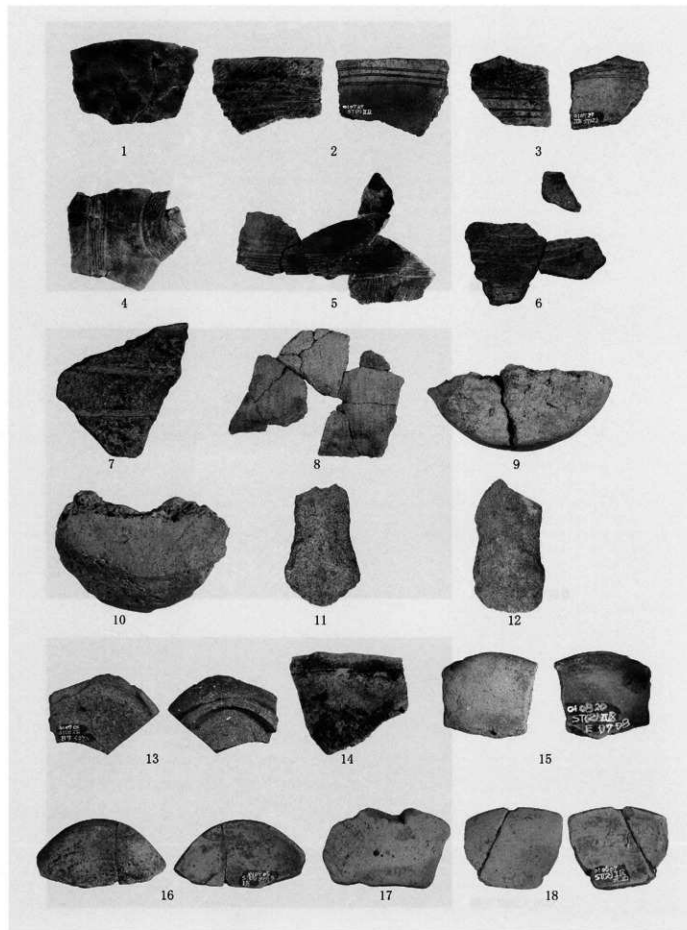


II区完掘（南より）



SX01・SD03 完掘







19

20

21



22

23

24



25

26

27



28

29

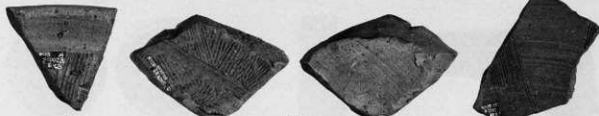
30



31

32

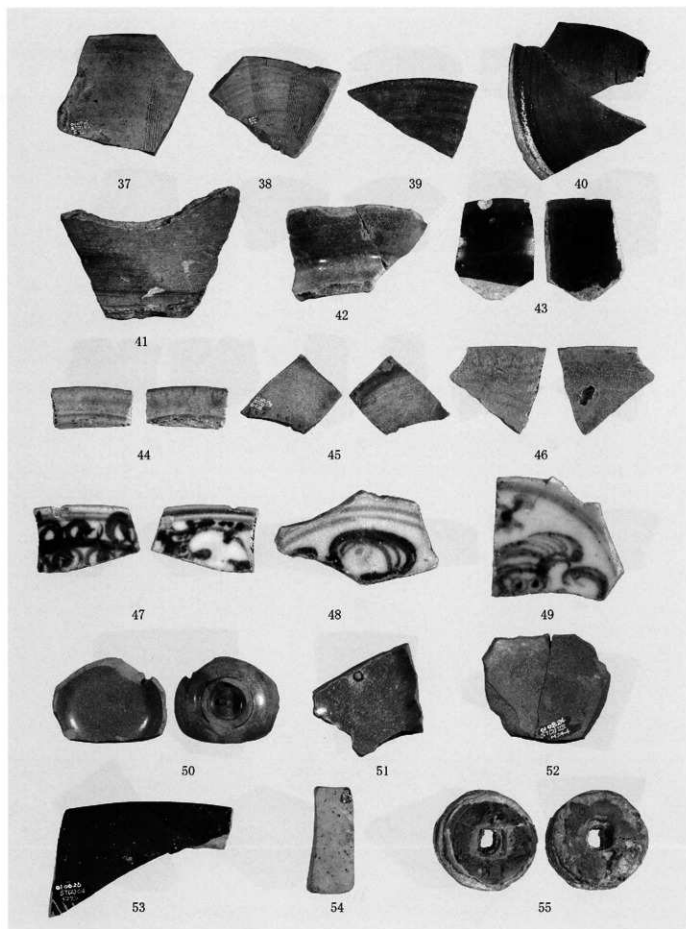
33



34

35

36



野々市町役場建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

三納トヘイダゴシ遺跡

発行日 平成25年3月29日
発行者 野々市市教育委員会
〒921-8510
石川県野々市市三納一丁目1番地
電話 076-227-6122
印刷 (株)画遊

